

別紙2

三重県 中央会情報連絡員報告総括表 (令和8年9月)

情報連絡員数	40	名	回答者数	40	名	回答率	100.0	%
--------	----	---	------	----	---	-----	-------	---

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製 造 業	食 料 品	0	3	1	0	4	0	3	1	0	0	3	1	0	2	2	0	3	1	0	4	0	0	4	0	0	3	1
	織 維 工 業	0	2	1	1	2	0	2	1	0	0	3	0	0	2	1	0	3	0	0	2	1	0	3	0	0	2	1
	木 材 ・ 木 製 品	0	0	2	0	0	2	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1
	紙 ・ 紙 加 工 品	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	印 刷	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	化 学 ・ ゴ ム																											
	窯 業 ・ 土 石 製 品	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0
	鉄 鋼 ・ 金 属	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	一 般 機 器	2	0	1	0	3	0	2	1	0	0	3	0	1	2	0	0	3	0	0	1	2	0	2	1	1	2	0
	電 気 機 器	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	輸 送 機 器	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
	そ の 他																											
小 計		3	10	7	2	16	2	8	10	2	1	17	2	1	13	6	0	18	2	0	14	6	1	17	2	1	14	5
非 製 造 業	卸 売 業		2		0	2	0	2	0	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0				0	2	0	0	1	1
	小 売 業	1	3	2	0	6	0	3	3	0	0	4	2	0	4	2	0	4	2				0	6	0	0	4	2
	商 店 街		1		0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0				0	1	0	0	0	1
	サ ー ビ ス 業	1	2	1				0	4	0	0	4	0	0	2	2	0	3	1				0	4	0	0	3	1
	建 設 業		2	2				2	2	0	0	2	2	0	3	1	0	3	1				0	3	1	0	3	1
	運 輸 業			1				0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0				0	1	0	0	0	1
	そ の 他		1	1				0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0				0	2	0	0	2	0
小 計		2	11	7	0	9	0	8	12	0	0	16	4	0	12	8	0	16	4				0	19	1	0	13	7
合 計		5	21	14	2	25	2	16	22	2	1	33	6	1	25	14	0	34	6	0	14	6	1	36	3	1	27	12

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和7年9月～令和8年9月)

三重県中小企業団体中央会

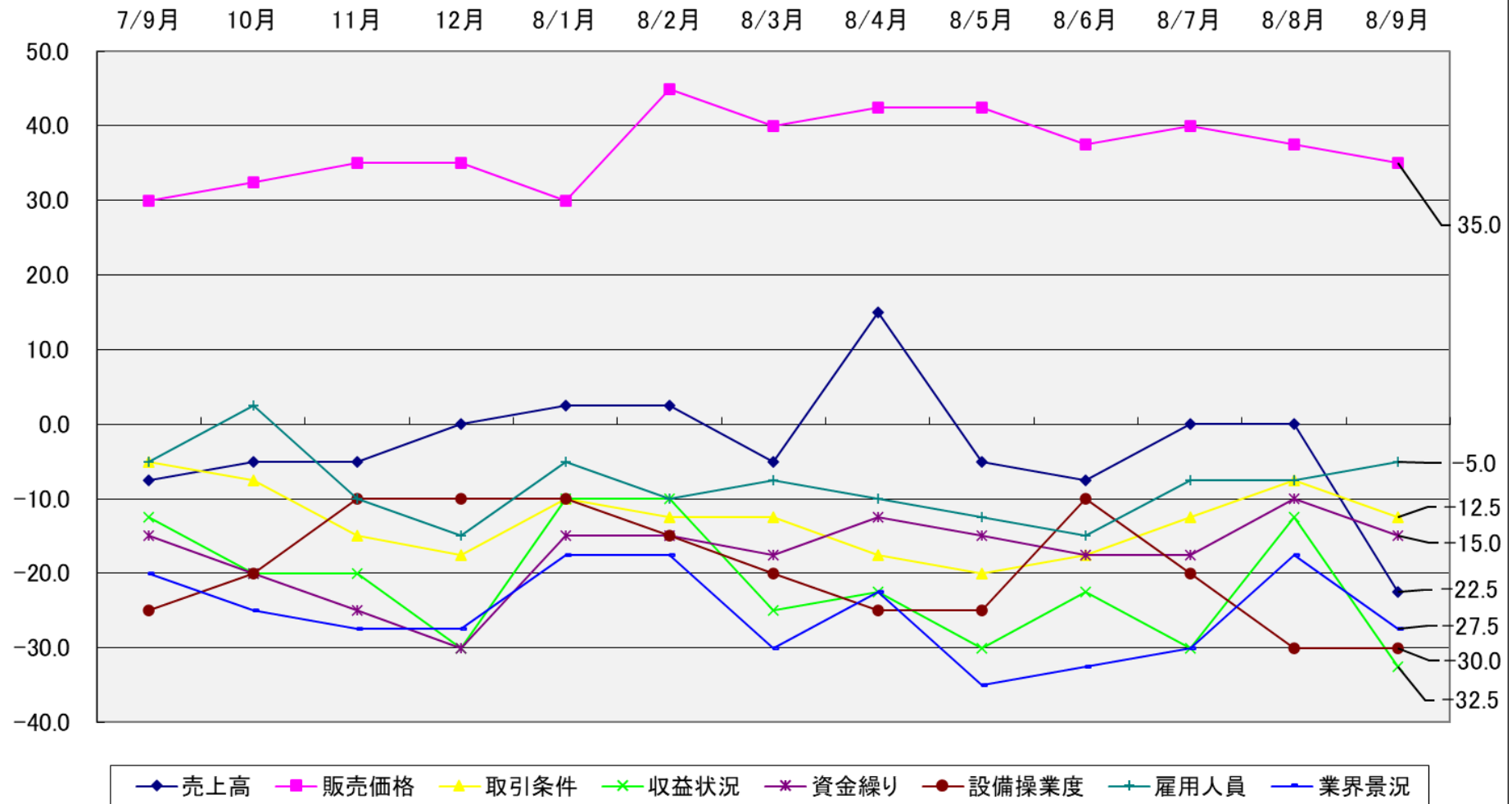
連絡員総数 40 名

	7/9月	10月	11月	12月	8/1月	8/2月	8/3月	8/4月	8/5月	8/6月	8/7月	8/8月	8/9月	増減
売上高	-7.5	-5.0	-5.0	0.0	2.5	2.5	-5.0	15.0	-5.0	-7.5	0.0	0.0	-22.5	-22.5
販売価格	30.0	32.5	35.0	35.0	30.0	45.0	40.0	42.5	42.5	37.5	40.0	37.5	35.0	-2.5
取引条件	-5.0	-7.5	-15.0	-17.5	-10.0	-12.5	-12.5	-17.5	-20.0	-17.5	-12.5	-7.5	-12.5	-5.0
収益状況	-12.5	-20.0	-20.0	-30.0	-10.0	-10.0	-25.0	-22.5	-30.0	-22.5	-30.0	-12.5	-32.5	-20.0
資金繰り	-15.0	-20.0	-25.0	-30.0	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-15.0	-17.5	-17.5	-10.0	-15.0	-5.0
設備操業度	-25.0	-20.0	-10.0	-10.0	-10.0	-15.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	-20.0	-30.0	-30.0	0.0
雇用人員	-5.0	2.5	-10.0	-15.0	-5.0	-10.0	-7.5	-10.0	-12.5	-15.0	-7.5	-7.5	-5.0	2.5
業界景況	-20.0	-25.0	-27.5	-27.5	-17.5	-17.5	-30.0	-22.5	-35.0	-32.5	-30.0	-17.5	-27.5	-10.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする

企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	No.	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	1	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、またイラク戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、経営を圧迫する状態が続いている。昨年からの米の価格高騰の影響により、米の消費が減少しており、それに伴い、漬物の消費も伸び悩んでいる。今後は、秋野菜の栽培が今年の異常な高温と連日の降雨により、生育への影響を心配している。
		2	醤油味噌	今月はシルバーウィークの5連休で観光地はにぎわったようであるが、一方で、台風による洪水、土砂崩れで被災した地域は復旧作業に追われた。毎年どこかの地域で災害が起きている状況を踏まえると、三重県も災害に見舞われる可能性があることから、事前の備えが必要である。9月から調味料等を中心に食品4,923品目が値上げになり家計を圧迫している。また、金利も上昇しており住宅ローンの金利も上がっている。10月からの麦価改定は5銘柄平均+12%となった。国産小麦もこの影響を大きく受けている。
		3	他に分類されない食料品 製造業	従業員の社会保険加入に伴う会社負担が重く、従業員を増やして一人当たりの年収を106万円以下に抑えるべきか、生活費を少しでも多く稼ぎたい意向に反する状況であり、対応に苦慮している。10月から最低賃金も60円近く上昇しており、物価高に対応できるか不透明なものの、やむを得ない状況である。また、異物混入は食品業界にとって命取りとなる問題であり、現在直面している課題である。
		4	製麺	全麺連の今期ラーメン品評会が開催され、68品目のラーメンが応募された。試食会も開催され、9月末のラーメン産業展で展示される。三重県からは、組合員の商品が出展となった。このイベント行事も4回目を迎えている。今後は、うどん・そば・パスタなどについても各地でご当地イベントが開催されていることから、伊勢うどんについても、今後の取組につなげられるよう、業界に働きかけていく必要がある。
	木材・木製品	6	衣料縫製	衣料品の国内の販売額は気温低下で10%増と大幅に伸びたが、ユニクロはじめファーストファッションが大半で、100%海外生産のものである。県内の生産額は逆に10%以上低下しており人件費、光熱費などの経費増で苦しい経営が続いている。
		8	木材	9月以降の大雨の影響で原木の集荷が遅れ気味である。円安、輸送コスト、燃料費の高騰等もあり、国産材製品の荷動きは依然として低調でコストに見合った価格転嫁は進んでいない。
		9	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。 従業員の確保が困難であり、機械や消耗品等の修理費の価格が高い。
	紙・紙加工品	10	古紙	9月の仕入れ量であるが：段ボール・平均約98±7%位、新聞、チラシ・平均約85±10%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて平均約91±8%位と考えられる。前年比を上回る事業所がある段ボール古紙の入荷状況では、新聞と雑誌古紙は1事業所の取扱量が少なく、前年比計算でバラツキが大きく参考にならないのが実態のようである。製紙原料古紙価格の正確な情報だが、中部圏の紙会社は9月1日から1.0円／キロ当たりの段ボール古紙の御取引価格を上方修正してもらったが、段ボール古紙輸出価格は国内価格より3.5～5.5円ほど、雑誌古紙は2.5～5.0ほどの値差がある。しかし、まだまだドル価格は安すぎると思われる。中部圏の古紙価格は、一般的に関西圏・関東圏に比べると1円以上安いようである。四日市市の取引先の経営破綻の債権は10万円以下であるため8割強の金額が返ってくるようだが、四国の債権は一律15万円＋債権額×0.1%とのこと。最低賃金の上昇と適正化や人手不足もあり、物価高や燃料不足等と実質的な収入増加をするためには、今なお粗利不足の状況だと思われる。三重県古紙卸（協）の組合員で同組合員にM&Aで吸収合併されたとのニュースもあるようだ。古紙や古着の持ち去りやゴミの置き去りも議員立法化の方向に進んでいるようである。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	No.	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	印刷	11	印刷	三重県印刷工業組合が制作・販売する三重県民手帳2027年版が10月9日（金）に発売となる。10月9日の発売日は、三重県庁ロビーを借りて11時～14時の間にて販売会を行う。9月においては、夏季であることやシルバーウィークといった長期休暇もあり、全体的に動きは低調である。
		14	伊賀焼	原材料価格の高騰により、各事業所は不安の中、商品製造や開発に努めている。県からエネルギー価格対策として補助金が交付されているものの、少額であるため、価格高騰の対策としては乏しい現状である。中東情勢も不安で、対中国関係が良好になることを期待している。
	鉄鋼・金属	15	鍍金	業界の生産額は、総じて堅調な状況である。中心は自動車車載部品関係で、特にEV関連の受注が好調である。ただ、昨今の物価状況により諸経費の高騰が顕著になってきており、収益はさほど伸びがみられない。
	一般機器	16	四日市市	8月ほど価格改定の連絡は入ってきていないが、今後の原材料価格、市販品価格の値上げは続くと考えられる。全般的に仕事量は確保できているように感じるが、利益確保のため販売価格の見直しが必要となる。
		17	津市	部品単価が例年より大きく上昇しているため、売上だけでみると大きく増加しているが、設備の稼働や従業員の残業は減っているため、昨年よりは少し受注が落ちている。最近では内示から確実に変わる時、注文が減っているため、利益は増えている感じはなく、どちらかというと低迷している状況である。
		18	伊勢市	先月に引き続きこの9月も良い感じで上昇していると感じられる。自動車関連も工作機械関連も生産設備の投資は堅調であり、原材料の値上がりは売価に反映できている。それだけ売価の値上げを認めてもらえる環境になったともいえる。不安は、米国・イスラエルのイラン紛争とウクライナ・ロシアの戦争による景気への影響、石油価格への影響である。
	電気機器	19	鳥羽市	少し動きは出てきており、70%～85%代に受発注量が動き出している。しかし、全資材・副資材が値上がりになり、業績が悪化している。
	輸送機器	20	伊勢市	自動車部品受注は、市場のニーズ対応品は堅調だが、過去からの部品は力強さが減少している。一般機械器具も前年比減である。ここ数年の労務費等の固定的費用増加に対し、物量の増減は収益に影響が大きく、加えて消耗品等の値上がりによる収益圧迫要因が目立つ。引き続き、企業物価の動き、エネルギー価格の高騰による動力費の動向に注視し、こまめな管理を行い利益確保につなげることが必要である。
		24	青果	(野菜前半) 猛暑の影響で少なかった葉物が降雨もあり回復してきた。昨年干ばつで不作だった北海道産のタマネギ、ジャガイモは順調に入荷し、豊作で安値になってきた。長野産レタス、群馬・長野産キャベツも安定して入荷。茨城・徳島産のサツマイモは生育が良く、甘みも十分ある。北海道産カボチャはお手頃価格になってきた。 (野菜後半) 長雨の影響で葉物を中心に少なく、長野産レタス・キャベツ・ハクサイの高値が続く。ホウレンソウ・コマツナの生育が鈍り、入荷量も少なく高値である。ミニトマトは主産地である北海道が冷え込みで生育が遅れて高値である。タマネギ・ジャガイモ・ニンジンも順調に入荷しており、安価になっている。 (果物前半) 全体的に生育が良い。「シャインマスカット」が山梨に加え、長野産の露地物が始まり、色づきが良く糖度も高い。ナシは長野・新潟・富山の「豊水」が9日から10日ごろにかけてピークとなった。青森産リンゴの「サンつがる」が最盛期となる。ミカンには県内産の「極早生みかん」が入荷時も良い。 (果物後半) 雨が長く降り続けているものの、おおむね順調に入荷している。長野産ブドウは最盛期に種がなく、皮ごと食べられる。「ナガノパープル」「シャインマスカット」「クインルージュ」と種類も豊富で、今が食べごろである。ナシは長野・富山・新潟・愛知産は「豊水」から「秋月」へ切り替わり、味も良い。リンゴは青森産「サンつがる」、ミカンは県内産の「極早生みかん」が本格的に入荷が始まり、味も良く人気である。
		25	自転車	長引く物価高でユーザーの生活防衛意識は日に日に高まっている。節約志向と逆に価値を感じる物には積極的に購入する「消費の二極化」が感じられ、様々なディスカウント店が増加する中、価格で勝負の表示が目立つ。昨今、自転車小売店は、その言葉についていけず閉店する店も徐々に増えている。20日以後に2027年度各メーカーより契約プログラムが配送され、取引についてはファーストにて入荷商品の基本掛率が提示される。その後のフォローオーダーの要件が決まる等、取引も複雑化している。自転車産業振興協会主催の「JAPAN Bike show」が9/30～10/1に有明GYM-EXで自転車産業をつなぐ展示商談会が開催される。スポーツアウトドア業界やアパレル業界等も出展予定である。
		26	電器	気候も少し穏やかになり過ごしやすくなったが、雨も多く若干工事の残っている販売店はなにかと段取りが取りにくい月であった。地元では商店街の火災の話題で、会員の付き合いのあるお客様も何件か被害に遭ったとのことである。いろんな意味で我々も協力できるように構えていきたいと考えている。一方、商品の動きなどは緩やかで良くも悪くも価格が高騰したままであり、さらに上昇することも下落することもない状況である。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	No.	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
商店街	27	石油	タンカーで原油を中東から日本に運搬してくるのに約1ヵ月程度かかるため、石油元売会社の卸値は、1ヶ月前の原油価格に左右されると考えられるが、実際には前週の原油価格に大きく左右されている。中東情勢の終結が見えない今、トランプ大統領の言動により原油価格は乱高下している。多額の税金を入れている緊急的激変緩和措置には賛否両論があるが、原油価格が乱高下した時のガソリンスタンドやお客様の混乱を考えると、原油価格が安定するまでは引き続き緊急的激変緩和措置の継続を強く望まれるところである。
	28	スポーツ	9月28日に第26回通常総会を開催した。日本スポーツ用品協同組合連合会から来年の全国大会を三重県での開催要望があり、それについて議論した。出席者全員が理事長の元、成功させようという思いで一致し、令和9年10月19日にホテルグリーンパーク津にて開催予定となった。
	29	熊野市	夏場には少なかったインバウンド客がこの時期になり、徐々に増え始めたようだ。特に欧米系のインバウンド客が多く、熊野古道を歩いている姿を商店街内でも見受けられる。仕事柄お店にきたインバウンド客と話をする機会もあり、この地方への滞在日数等を聞くと1週間ほどの滞在が多く、一箇所の宿泊所を拠点に和歌山を含めた熊野古道を散策される客が多いようだ。商店街としてもインバウンド集客を意識したタイアップイベント等を企画するのも一考かと感じる。
	31	旅館	8月は猛暑による出控えと海水浴離れ等、客の志向の変化もあって、夏のシーズンとしては良くなかった。9月はシルバーウィークも有り、8月のマイナスは9月で取り返せるとの見通しが出ていた。11年ぶりの5連休で、台風の襲来は無く大いに期待していたが、集中豪雨による被害が各地で発生したこともあり、5連休はどこも賑わっていたようだが、5連休に集中して前後が谷間になり、全体では対前年比120%、2019年同月比は80%程度であった。
	33	警備	9月は殆ど雨天日で、内勤(施設警備)は影響はなかったが、外勤(交通誘導警備)、イベント警備はほとんど中止延期となった。延期になった分は10月の受注分と重なり、段取が大変となる。
	34	総合工事業	2026年8月の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べ約1割増となっている。内訳でみると、県での増額によるものが要因である。4月から8月の県トータルでみるとほぼ同額となっているが、地域的には中勢では減少が大きく、県内の他の地域は増加傾向となっている。
	35	内装工事業	9月はシルバーウィークで休日が多いこともあり、また対前年同月の値が大きいため、本年度はマイナスとなっている。物価高による原材料の高騰等により、建設関係の受注は鈍いため、業界の景況予測は難しい。
	37	水道工事業（亀山市）	亀山市からの委託業務も上半期が終了した。減少傾向ではあるが、契約時の予定数量の量水器の取替を行っている。また漏水の件数については、前年比で減少傾向である。
	37	水道工事業（亀山市）	亀山市からの委託業務も上半期が終了した。減少傾向ではあるが、契約時の予定数量の量水器の取替を行っている。また漏水の件数については、前年比で減少傾向である。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種		具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	4	製麺	人員確保が厳しくなっている中、人材育成などに関する取組についても教えていただきたい。
繊維工業	6	衣料縫製	繊維業界の国内生産は減少が進んでおり、かつて10大紡績もシキボウを残すまでとなっており、あらゆる生産現場が減少している。残された企業間を垂直統合して開発力を高めなければならない。まだまだ生産技術が優れた企業があるはずだ。いままでの産地が崩壊しており、情報が不足している。
一般機器	16	四日市市	原材料、仕入れ品の価格上昇は今後も続いていく方向で間違いなさそう、今後価格転嫁をいかに進めていくかが課題となっている、また物価上昇により賃上げも進めていく必要がある。
小売業	27	石油	原油の輸入量を安定させ、価格の高騰が一段落するまでは、引き続き緊急的激変緩和措置の継続を強く要望する。
サービス業	31	旅館	諸物価の高騰、特に食品関連の値上がりがありが原価を押し上げて、収益性の悪化は避けられない。宿泊業をはじめ、生活衛生関連の業種は小規模ということもあり、乗り切ることが大変である。信用保証協会の融資枠の拡大や、食材等の仕入価格高騰に対する支援金の支給などの助成を検討してもらいたい。